

幼児の環境活動が園児や親の意識・行動に及ぼす効果

－愛媛県内子保育園の事例－

芝浦工業大学環境システム学科 中口毅博

1. はじめに

幼児期における自然体験活動が豊かな感性や社会性を育むとともに、環境意識を高めると言われている。しかし、幼児はアンケート調査や作文など、自らの意思を文字で表現することはまだ不可能である。そこで従来は参与観察調査により幼児の言動を記録することで効果を把握することがしばしば行われているが、どうしてもサンプル数が少なくなり、観察者の主観はいることもある。また自然体験活動や省エネ活動、リサイクル活動と言った個別に効果把握した研究はあるが、これらの活動を相互比較したものは少ない。

そこで本研究は幼児の環境活動が園児や家庭に及ぼす効果を、愛媛県内子町の事例として把握することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究でいう効果は、園で行った環境活動のことを園児が家庭に伝えた度合い(伝達度)、家で環境活動を実施するようになった度合い(行動実践度)と定義し、保護者の観察によってこれを把握するものとした。すなわち表1に示すとおり、町内すべての幼稚園・保育園の保護者に対するアンケート調査により伝達度と行動実践度を把握するとともに、各園で実施する環境活動を各園へのアンケート調査によって把握した(全回収数337、内子保育園51)。この調査結果より、内子保育園の園児のエコ活動の親への伝達度や家での行動実践度を他園と比較することで、園の取り組みの効果を把握した。また、園での学習回数との関係を分析することで、活動内容ごとの効果を把握した。

3. 内子保育園の取り組み

内子町は愛媛県の山間部にある人口1万8千人の農林業と観光のまちで、豊かな自然と歴史的景観を有しており、どの園も散歩や川遊びなどの野外活動、自然素材を活かした遊具や園庭作りなど、町の特徴を活かした保育活動を実践している。とりわけ内子保育園は園児数が約90名と町内最大の園であるが、2012年度

表1 調査の概要

種類	保護者アンケート調査	保育士アンケート調査
時期	2013年9月	2013年10月
方法	各園を通じて配布・回収	メールで配布・回収
内容	町の活動の認知度、エコへの関心度、園の活動への賛意、エコ記事の購読度、子どもから保護者への伝達内容、子どもの家庭での環境配慮行動の変化内容、保護者の家庭での環境配慮行動の内容	年齢別のエコ活動の内容と実施回数
回収数	337(幼稚園117、保育園220)	11(幼稚園5、保育園6)

表2 親への伝達度の比較

項目	全体	有意性 検定	内子 保育園
「エコ活動」全般	47%	<<<	65%
ごみ、リサイクル、紙の節約	33%	<<<	51%
省エネや冷暖房	12%	<<<	25%
ごみひろい・掃除	25%		31%
節水や水を汚さない	34%	<<<	53%
野菜や花の育成・鑑賞	45%		51%
川遊び・園外での水遊び	53%		63%
生き物採取や飼育	42%	<<	59%
散歩での発見	38%	<<<	63%
エコマップ(周辺の地図)づくり	1%		2%
自然探検や遠足	30%		25%
葉っぱや石探し	29%		35%
不要品や草花を使った工作	24%		18%
自然や廃材を使った園庭や遊具	15%	<<<	27%
園内の環境チェック(みまわり)	8%	<<<	43%
エコの本・紙芝居・かるた	9%		6%
お絵かき(環境や自然に関する)	8%		12%
エコの歌・音楽や手遊び	18%	<	25%
料理や食べ物、栄養	25%	<<	39%
昔の生活や知恵	7%		4%
エコ集会	3%		2%
園独自のキャラクター	10%	>>>	0%
小・中・高・大学生との交流	39%	<<<	69%
高齢者との交流	27%		27%
外部講師が来たこと	36%	<	47%

から「エコ見回り隊」と称し、年長児が各部屋の電気・紙・水をチェックし記録するという環境活動を実践している。この活動は他の3つの園にも拡大し、内子小学校にも波及している。

4. 内子保育園における環境活動の効果分析

4.1 園児や保護者への効果

(1) 環境活動の親への伝達率

表2は園での環境活動の親への伝達率を項目別に比較したものである。エコ活動全般をはじめ、25項目中12項目で内子保育園園児の伝達率が有意に高くなっ

表3 家での環境行動実施率の比較

項目	全体	有意性 検定	内子 保育園
「エコ」の意識や行動が高まった	39%	<<<	61%
ごみ分別やリサイクルをする	14%		16%
省エネや冷暖房への気配りをする	12%	<<<	24%
ごみひろいや掃除をする	11%	<	18%
節水や水を汚さない	20%	<<<	41%
屋外で遊ぶ	9%		14%
植物採取や栽培をする	9%	<<	20%
昆虫採取や動物飼育をする	17%	<<<	33%
不要品や草花を使った工作をする	12%		14%
環境や生き物の本やテレビを見る	14%	<<<	31%
環境や自然の絵を描く	2%		4%
エコの歌を歌ったり演奏する	7%	<<	16%
食べ物や栄養に関心を持つ	12%	<<<	29%
家の環境チェック(みまわり)をする	4%	<<<	16%
エコに関心のない大人を注意する	5%	<<<	22%

表4 親の環境意識・行動の比較

項目	全体	有意性 検定	内子 保育園
内子町のエコの取り組みを知っている	86%	<<	96%
「エコ」について関心がある	96%	<	100%
園で「エコ活動」を知っている	99%		100%
園だよりのエコに関する記事を読む	77%	<<	88%
電灯や冷暖房を控えめにする	77%	>	67%
家電等を省エネの視点で選ぶ	49%		49%
湯沸かし器などの口火を消す	31%		33%
冷蔵庫の扉の開閉を少なくする	26%		27%
車のエンジンをこまめに切る	30%		29%
マイカーの利用を自粛する	2%		0%
詰め替え製品を使う	79%		82%
レジ袋をもらわない(買い物袋を持参する)	39%		43%
食品を捨てないようにする	45%		43%
使い捨て食器類や飲料容器を使わない	21%		22%
友人や知人などと、不用品を融通し合う	37%	<	47%
野山で生き物採取や観察をする	20%		27%
川・海などで生き物採取や観察をする	24%		25%

ている。特に「ごみ、リサイクル、紙の節約」「省エネや冷暖房」「節水や水を汚さない」「園内の環境チェック(みまわり)」の伝達度が高くなっているのはエコ見回り隊の効果と考えられる。

(2) 園児の家での環境行動実施率

表3は園児の家での環境行動の実施率を項目別に比較したものである。全般をはじめ、15項目中11項目で内子保育園の実施率が有意に高くなっている。特に「省エネや冷暖房への気配りをする」「節水や水を汚さない」「家の環境チェック(みまわり)をする」「エコに関心のない大人を注意する」が高くなっているのは、エコ見回り隊の効果と考えられる。

(3) 保護者の環境行動実施率

表4は保護者の環境行動の実施率を項目別に比較したものである。「内子町のエコの取り組みを知っている」「園だよりのエコに関する記事を読む」など意識に関して高い項目が3項目あるものの、全体的にみると有意な差のある行動はきわめて少なかった。したがって、子どもの環境活動が保護者に波及するところまでは至っていないと言える。

4.2 園の環境学習・環境学習活動との関係

(1) 親への伝達率との関係

親への伝達率(25項目の平均)環境学習・環境学習活動の実施回数(全学年平均)との関係を図1に示した。これをみると内子保育園は他園と比較して実施回数が多く、親にもよく伝わっていることがわかる。

(2) 園の環境学習・環境学習活動との関係

園児の行動実施率(15項目の平均)と園の実施する環境学習・環境学習活動の実施回数(全学年平均)との関係を図2に示した。これをみると内子保育園は他園と比較して実施回数が多く、園児の家庭での行動率も飛び抜けて高いことがわかる。

5. まとめ

本研究は幼児の環境活動が園児や家庭に及ぼす効果を、エコみまわり隊を実施している愛媛県内子町内子保育園を事例として把握した。その結果、内子保育園の園児は他園と比較して保護者への伝達率が高いとともに、家庭での環境活動も他園の園児よりも実践していることが明らかになった。

キーワード:

環境教育、環境活動、幼児教育、環境意識、環境行動

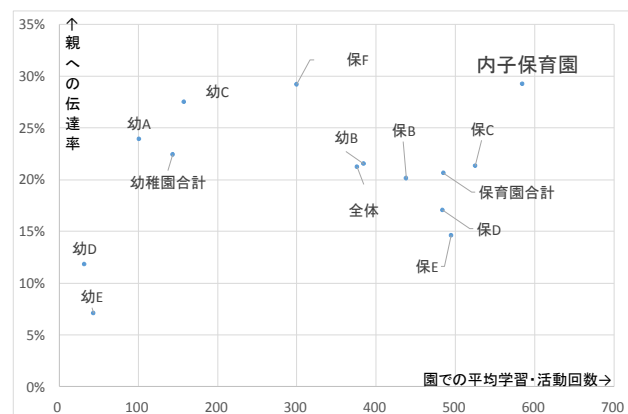


図1 家での行動実践回数と園での学習回数の関係(園別)

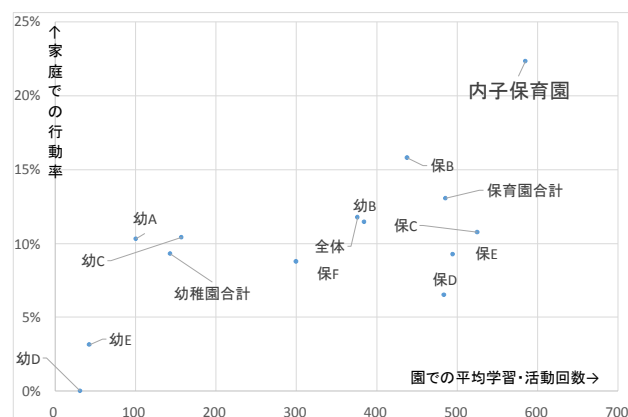


図2 園児の家での行動実践回数と園での学習回数の関係(園別)